

民主化闘争情報

No. 946
2017年2月8日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR東日本及びJR東労組は、1987年8月7日、「鉄道事業の再生と経営基盤の確立」、「社員の幸福と誇りに満ちた社風の醸成」、そして「健全な新しい労使関係の確立」をめざすとし、「労使共同宣言」を締結した。以降、第二次、第三次の宣言を締結し、2001年8月1日には、「新たな企業文化の醸成」と「一段と質の高い労使関係の構築」にむけ、「21世紀労使共同宣言」を締結し、今日に至っている。しかし、JR東労組は、2017春季生活闘争にあたり、「格差ベア」を争点とした「スト権一票投票」を行い、2月10日、スト権確立をめざす臨時大会を開催する模様であり、JR東日本労使は、36協定問題も相俟って、全面戦争の様相を呈している。

JR東日本労使「21世紀労使共同宣言」

を今すぐ破棄すべきだ。

「21世紀労使共同宣言」では、労使関係について、次のように触れられている。

JR東日本とJR東労組とは、国鉄時代の不毛な労使関係から、労使相協力する健全な新しい労使関係へと自己変革を図ってきた。その結果、私たち労使は、相互の信頼関係を着実に築き上げ、会社の繁栄発展と社員・家族の幸福を実現してきた。

21世紀においても、また、完全民営化後もJR東日本グループの発展の基礎をなすものが、健全で安定した労使関係であることに変わりはない。(中略)加えて、会社発足以来、今日まで築き上げてきた労使関係のもと、会社内における問題は経営協議会や団体交渉の場等を最大限活用し、あくまで平和裡かつ自主的に労使間の真摯かつ率直な話し合いにおいて解決を図る。

私たち労使は、このことを十分に念頭に置き、(中略)課題を真正面から直視し一段と質の高い労使関係を構築する。そして、会社の繁栄発展と社員・家族の幸福実現に加えて、情熱を持って社会的責任を遂行することを共通の目標とする。

平成13年8月1日

東日本旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 大塚 陸毅

東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員長 角岸 幸三

JR東労組は、かつてホームページの「JR東労組とは？」で、『JR東労組とJR東日本会社は労使協力の健全な労使関係を築いています。(中略)JR東労組の場合は「労使共同宣言」を結び、ストライキによらず平和的手段で紛争を解決することを会社と確認しあっています』と丁寧な解説している。

臨時大会でスト権を確立するにあたっては、まずは2016春季生活闘争で妥結したベアを返上し、「労使共同宣言」を破棄した上で臨むべきではないか。

JR発足30周年を目前に控え、

「不毛な国鉄時代の労使関係」に先祖帰りか？！